

令和 3 年度 学校評価結果

評価項目の達成及び取組状況

よくできている…A（よくあてはまる・ややあてはまるを合わせて 90%以上）

できている…B（よくあてはまる・ややあてはまるを合わせて 80%-89%）

あまりできていない…C（よくあてはまる・ややあてはまるを合わせて 70-79%以上）

できていない…D（よくあてはまる・ややあてはまるを合わせて 70%未満）

評価項目	結果		理由
	保護者	自己評価	
園の管理・運営・保育について			
保育・研究・研修			
1	◆重点目標 研究テーマ「遊びや友達の中で育まれる力」の3年目。研究方法も含めて、みんなで話し合いながら進めていく。		A 本研究テーマの3年目の本年度は、前年度の取組の成果や過程を踏まえて園内研を行った。また、大学の先生と今後の方向性について助言いただく機会を設けた。
2	◆重点目標 学期ごとの学年別公開保育研究会・エピソード記述・保育マップ・保育マップ型記録・書籍の読み合わせ・カンファレンス、学年末にポートフォリオを続け、他園の保育者・保護者・附属小学校などへ本園の保育を発信し続ける。		A 学年別公開保育は、コロナの影響等で実施できなかったが、2月の公開保育研究会は、コロナのためオンラインにて本園の取り組みの紹介と講演会を開催した。エピソード記述・保育マップ・保育マップ型記録・書籍の読み合わせ・カンファレンス、ポートフォリオは継続し、他園の保育者・保護者・附属小学校などへ本園の保育を発信することはできた。
3	◆重点目標 全教職員が、園内研修に引き続き参加すると共に、園外研修にも積極的に参加し、引き続き園全体の職員の資質向上をめざす。		A 園内研修会は全教職員で行った。また、県や市の研修会や他園の研究会（リモート）に積極的に参加することができた。他附属園の取組を学ぶ機会になり、視野を広げることに繋がった。
4	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園は、子どものよさを見つけ、子どもを理解している。	A	A 園児の様子は、職員朝会や園内研修におけるカンファレンスやエピソード記述を行い、共通理解を図ってきた。気になる子についても互いに声をかけ合い相談・助言できる環境・雰囲気は保たれている。
5	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園は、年齢や子どもの育ちに合わせて必要	A	A 園児の主体性を大切に、話を丁寧に聞き、受け止め、安心感を抱くように努

	なとこで子どもたちを援助していると感じる。			めている。
6	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園は、研修等を行い、子どもの遊びや生活の充実に努めている。	A	A	「保育のねらい」を振り返り、保育者の援助の在り方や環境の構成等について、共通理解を図った。
安全管理				
7	◆重点目標 引き続き、毎月、遊具・園舎等の安全点検を行う。日常の保育の中での気づきも出し合い、みんなで共有して、改善する。		A	毎月、安全点検を行い、修理・廃棄等を行った。今年度は、安全点検項目の見直しを行い、さらに細かく点検を行ってきた。また、危険箇所気付いた時は、早急に対応するよう努めた。
8	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園内の安全対策（施設・遊具・不審者対策等）に努めている。	A	A	一日入園の日に遊具説明会を開いた。また、業者による遊具点検を実施し、遊具の修繕や移設、撤去を行った。
9	◆重点目標 地震や水害に備え、備蓄倉庫に水・乾パン等を備える。		B	2階の備蓄倉庫に乾パンと水、簡易トイレを準備している。今年度からは、年度末に非常用食品の確認と定期的な入れ替えが行えるよう態勢を整えた。
新体制				
	◆重点目標 一本化された園長を中心に大学側との連携を図りながら、全職員で力を合わせて保育の質の向上に努める。		A	組織や園務分掌、行事等の方法の見直しを全職員で行いながら、よりよい保育について考え取り組んだ。教育相談、オブジェ作り、藍染め体験、卒園制作等は、大学教員の協力のもと行った。
	◆重点目標 本園の特色を地域住民に積極的に発信したり、外部からの参観・質問等を積極的に受け入れたりすることで、「通わせたい幼稚園」と認識されるよう保育体制を充実させる。		A	今年度から預かり保育を実施した。また、「小さい子が来る日」においても、二部体制にするなど感染対策を行った上で実施できた。次年度は、HPに園行事等を掲載するなど、活動の様子も伝わるような工夫を行いたい。
	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園は、園の取り組み等（小さい子が来る日・ぱんだのおへや・園庭開放等）を外部へ発信している。	C	A	外部からの「小さい子が来る日」への参加は、人数制限をかけていたこともあるが、キャンセル待ちの状態が続いた。取り組みとしては、HPで日程の案内等を行った。また、今年度は「小さい子が来る日」のチラシを「ゆめぼけっと」に配付、フリーペーパー「ワイヤーママ」への掲載を行った。しかし、どちらも1回にとどまっていた。次年度は、回数を増やしたり、地域への園庭開放の周知を促したりしたい。
保護者・子育て支援				
	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 子どもの様子や保育方針・考え方等をおたよりや降園時等で保護者に分かりやすく伝	A	A	園だより、クラスだより、保健だよりを発行し、説明を行ってきた。また、学校情報携帯メールによるメール連絡も行った。

	えている。			た。
	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園行事や保育参加などは、保護者が参加し やすいように工夫している。	A	A	また、子育て談話室では、弟妹が遊ぶ 場所を作っている。
	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園は、子どものことについて、気軽に相談に 応じている。	A	A	降園時や電話、個人面談等で相談を 受けている。園だよりで保育発達支援 員に寄稿していただいたことで、保育 発達支援員へ声をかけられることも増 えた。また、毎学期、大学の先生による 相談日を設け、お便り等で保護者への 周知を図った。
	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 育友会の組織や活動についての説明はわ かりやすい。	B	A	コロナの影響で育友会活動の組織や 内容の説明を簡略化せざるを得なか った。しかし、部から出されるお便りや 園だよりで活動の紹介を積極的行 った。
	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園は、子育て支援(小さい子が来る日・預か り保育・保護者講座等)に努めている。	B	A	コロナの影響で中止することもあつた が、小さい子が来る日をコロナ対策と して2部制にし、5日間実施した。保護 者講座も密を避けるため、オンデマ ンド配信で実施した。預かり保育は、年 間で延べ 2000 人を越える参加にな ったが、実施日を増やす等改善の必要 もある。
大学・他附属との連携				
	◆重点目標 午前中保育の日に、交替で附小の授業を 参観に行き、卒園生の小学校での様子 を見、幼小連携につなげる。		D	昨年度から基本的に週 5 日午後まで の保育となったため、附小参観の回数 は減っているが、研究発表会や午前保 育日に数回卒園生の様子を見に行っ た。
	◆重点目標 幼小連携コースの先生や学生が学びに 来ることをできるだけ受け入れて、本園の保育 を伝えていく。		A	コロナの影響で、大学生の保育参加 は実施できなかったが、実習前の観察 を積極的に受け入れた。また、数名で はあるが大学教員に園の様子を観に 来ていただいた。
	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園は、附属小学校と連携(授業参観・交流 活動等)をとっている。	B	B	幼小連絡会を計3回行った。コロナの 影響で交流活動はほとんどできなかつ たが、栄養教諭の先生による食育教 育を年長組で行った。また、校長先生 に園の様子を観に来ていただいた。
	◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園は、大学と連携(教育実習・大学の先生 による教育相談や体験活動等)をとって いる。	A	A	保育観察実習、教育実習、探究実習、 卒業論文への協力等の受け入れを行 った。また、大学教員による教育相談 等や体験活動を実施した。今年度の 体験活動は4回実施した。
エコアクション				

◆重点目標 子ども達に対しては、将来自然を大切に出来るよう五感を通して自然に触れる体験ができる場をたくさん用意する。職員・保護者は、電気・水・紙の使用量を極力減らし、その後ろ姿を子ども達に見せる。		A	水・土・虫・花・魚など、大いに自然と触れ合って遊べた。ゴミの分別、紙や紐の再利用、部屋を出る時は、電気やエアコンを消すように心がけている。
◆重点目標 保護者に対しては、案を募集するとともに、やっていることを説明して理解を求める。		A	保護者へエコ活動のアイデア募集を行った。家庭から持って来た空き箱等を使った楽器づくりから広がった有志による演奏会が行われたことを、お便りで紹介した。
◇保護者アンケート・自己評価の評価項目 園はエコ活動に力を入れている。	B	A	育友会環境部の活動でグリーンカーテンに取り組み、好評だった。しかし、園内で行っている紙・電気・水等のエコ活動についての取り組みが保護者に伝わりにくいところがある。丁寧な情報発信が必要である。

園児について				
幼稚園に行くのを喜んでいる。	A	A	おおむね喜んでいるようだ。	
友達と遊ぶのが楽しいようだ。	A	A	遊びの中で、もめたり、葛藤したりすることも含め、友達とのかかわりを深めていると感じる。	
体力がついた。	A	A	寒い日でも晴れた日は、外で遊ぶ園児が多い。コロナ禍の中、園児自身が発熱等で休むことは全体的に少なく、元気に過ごすことができた。	
いろいろなことに積極的に取り組んでいる。	A	A	新入園児も、自分のやりたいことを見つけて遊ぶことができるようになってきた。	
自分の気持ちや思っていることを周囲に自己表出(ことば・行動)している。	A	A	ことばや行動で表現できるようになってきた。行動で表現していた子も次第に言葉で伝えることができるようになってきている。	
まわりの大人や家族・友達の話聞くようになった。	A	A	トラブルが起きた時には、話し合いの場を設けて、お互いに話を聞けるように努力している。また、全体の場においても、最後まで話を聞くことができる園児が増えた。	
絵本やおはなしに興味を示す。	A	A	絵本や劇等が始まると静かに集中して見る園児が多い。自ら絵本を手に取り読んでいる様子もうかがえる。	
歌ったり、音を鳴らしたり、音楽に合わせて踊ったりする。	A	A	自分たちで CD デッキやギターを貸してほしいと職員室へ声をかけに来ている。ゆうぎ室の舞台上で曲をかけて踊っ	

				たり闘ったりしている。また、自分たちの踊りや演奏を鑑賞してほしいという思いから、職員や他のクラスを招待し有志で会を開くことも多々あった。
	絵を描いたり、何か作ったりする。	A	A	色水遊びや泡遊び、〇〇屋さんなどで楽しむ園児が多く見られた。空き箱や段ボールを使って、楽器やロボットなどを製作する遊びを楽しむ姿も見られた。
	土・泥・水などで喜んで遊ぶ。	A	A	夏は、互いに水を掛け合い、水遊びを楽しんでいた。雨あがりには、裸足や長靴を履いて園庭へ出かけ、水たまりの音や感触を楽しむ姿も見られた。また、一年を通して泥団子やサラ粉作り、川工事遊びが盛んだった。